

作成日 2019年8月27日

改訂日 2024年6月6日

安全データシート (S D S)

1. 製品及び会社情報

製品名	トライザー2
会社名	株式会社 東京技研
住 所	東京都世田谷区玉堤 1-25-13
電話番号	03-3703-5581
FAX 番号	03-3705-1760
緊急連絡電話番号	03-3703-5581
推奨用途	石膏トラップ用除菌防臭剤
使用上の制限	他の用途に使用しないこと
整理番号	TGYA1-07A-24016

2. 危険有害性の要約

化学品のG H S分類

物理化学的危険性

可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（経皮）	区分 4
急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 1
特定法的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（胃、消化器系）
特定法的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
環境に対する有害性	
水性環境急性有害性	区分 1
水性環境慢性有害性	区分 1

上記に記載がない危険有害性は、分類できない、もしくは区分に該当しない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害
吸入すると有害
重篤な眼の損傷
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
炎および高温のものから遠ざけること。
錠剤の中身を飲み込んだり、吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにし、
取扱い中は保護手袋／保護メガネ／保護マスク等の適切な保護具を着用
すること。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

[応急措置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗い流す。何らかの異常を感じた
時は医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを
着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所で、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

3. 組成及び成分情報（含有量は代表値）

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名	非水性エステル、酸化亜鉛およびカチオン性抗菌材からなる固状 物を水溶性フィルムで包んだもの。
シートの中身成分及び含有量	非水性エステル 約 46% 酸化亜鉛 約 12% カチオン性抗菌材 約 42%
化審法番号	構成する各化学成分の化審法番号あり
CAS No.	構成する各化学成分の CAS No. あり
危険有害成分及び不純物	

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移動して安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水及び石鹼で洗い流す。必要に応じて医師の診断を受ける。
眼に入った場合	直ちに流水で 15 分間以上洗い流す。コンタクトレンズを着用していて容

飲み込んだ場合 易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。その後、直ちに医師の処置を受ける。直ちに口の中を洗浄し、意識がある場合はコップ1～2杯の水または牛乳を飲ませ、直ちに医師の処置を受ける。但し、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。無理に吐かせようとしない。意識のないときは、口から何も与えない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、粉末、泡、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状水
特定の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 周囲の設備等に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火活動は、可能な限り風上から行い有毒なガスの吸入を避ける。 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	漏出防止、除害などの作業は、必ず、保護具（手袋、保護眼鏡）を着用する。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	付近の着火源となるものを取り除く。 土砂等の不燃物で囲い流出を防止し、スコップまたは吸引器等で空容器に回収する。回収後の少量の残留分は土砂またはおが屑等に吸収させ回収する。残留分がごく少量の場合は、ウエス等で拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	作業場の換気を十分に行い、保護メガネ、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
注意事項	強酸化剤との接触は避ける。 火気注意。
安全取扱い注意事項	取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。
保管	
適切な保管条件	通気の良い場所で密栓保管する。
包装容器材料	製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	蒸気、粉じん、またはヒューム、ミストが発生する場合は局所排気装置を設置する。粉じんが滞留する場合は、機器類は防爆構造とし、設備は静電気除去対策を実施する。取扱い場所の近くに洗眼、および身体洗浄
------	--

	のための設備を設ける。
管理濃度	設定されていない
許容濃度	設定されていない
保護具	
呼吸器用保護具	通常の作業の場合は特に必要なし
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	ゴーグル型または全面保護メガネを着用する。
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質（代表値）

物理状態	固体
色	青色
臭い	ほぼ無臭
融点	約57°C
沸点	情報なし
可燃性	情報なし
爆発限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
n-オクタノール／水分配係数（log値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
溶媒に対する溶解性	エタノールに易溶 トルエン、メタノール、酢酸エチルに不溶

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱い条件下においては、光、熱、衝撃に対して化学的に安定。
反応性	強酸化剤とは反応して危険。
避けるべき条件	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報（本品または成分の情報およびその類似品の情報）

急性毒性（経口）	シートの中身の急性毒性 LD50 > 540mg/kg (マウス)
急性毒性（経皮）	4880 mg/kg (ラット)
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（胃、消化器系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

1 2. 環境影響情報（本品または成分の情報およびその類似品の情報）

水性環境有害性 短期（急性）	区分1
水性環境有害性 長期（慢性）	区分1
生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を得た専門の産業廃棄物処理業者に委託処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	航空輸送は I C A O ／ I A T A 及び海上輸送は I M D G の規則に従う。
国連分類	クラス9
指針番号	154
国連番号	3077
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
国内規制	陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運輸方法に従う。 海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては、容器の漏れのないこと及び所定の表示のあることを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。輸送時は雨に当たないようにする。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物：酸化亜鉛含有濃度 $\geq 1\%$ 名称等を通知すべき危険物及び有害物：酸化亜鉛含有濃度 $\geq 0.1\%$
---------	--

化学物質管理促進法（P R T R法）

特定第一種指定化学物質	該当しない
第一種指定化学物質	該当 アルキル（ベンジル）（ジメチル）アンモニウムの塩（アルキル基の炭素数が12から16までのもの及びその混合物に限る） ≥1%
	ジデシル（ジメチル）アンモニウムの塩 ≥1%
第二種指定化学物質	該当しない
消防法	
危険物	該当しない
指定可燃物	可燃性固体類
毒物及び劇物取締法	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
海洋汚染防止法	
海洋汚染物質P	該当
輸出貿易管理令	該当しない
薬事法	該当しない
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条 危険物告示別表第1）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条 危険物告知別表第1）

16. その他の情報

引用文献	「産業衛生学雑誌」（2011／9）（日本産業衛生学会） 「TLVs and BEIs」（2011）（ACGIH） 安全性試験期間測定値 化学物質の発がん性評価とその分類基準（第7版）」（2007）（JETOC）
------	--

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意してください。

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも完全性・安全性や信憑性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。